

# 写像・変換・1次変換|0章平面と1次変換

樋口さぶろお <https://hig3.net>

龍谷大学 先端理工学部 数理・情報科学課程

線形代数☆演習 I L07(2024-05-01 Wed)

最終更新: Time-stamp: "2024-05-01 Wed 06:57 JST hig"

## 今日の目標

- 加藤 線形代数 p.7  $2 \times 2$  行列と  $2 \times 1$  行列 (ベクトル) の積が計算できる
- 加藤 線形代数 例題 2,3(pp.9,10) 1次変換から行列, 行列から1次変換を求められる



## Quiz

## L06-Q1

## Quiz 解答: 平面の方程式

- ①  $\frac{1}{\sqrt{14}}(3x + y - 2z) = C$  とおく.  $\mathbf{r}_0$  を通ることから,  $\sqrt{14}C = 3 \cdot 1$  よって,  $3x + y - 2z = 3$ .
- ②  $0x + 0y + 1z = C$  とおく.  $\mathbf{r}_0$  を通ることから,  $C = -4$  よって,  $z = -4$ .

## L06-Q2

## Quiz 解答: 平面のパラメタ表示とベクトル方程式

- ① パラメタ表示は

$$\mathbf{x} = \begin{bmatrix} 0 \\ 1 \\ 3 \end{bmatrix} t + \begin{bmatrix} 0 \\ 5 \\ 2 \end{bmatrix} s + \begin{bmatrix} 13 \\ 2 \\ 1 \end{bmatrix} \quad (t, s \text{ はパラメタ})$$

- ②  $\mathbf{a}, \mathbf{b}$  の両方に垂直なベクトル  $\mathbf{n} = \mathbf{a} \times \mathbf{b} = \begin{bmatrix} -13 \\ 0 \\ 0 \end{bmatrix}$  は平面の法線ベクトルのひとつ。よって、方程式は、

$$\left( \mathbf{x} - \begin{bmatrix} 13 \\ 2 \\ 1 \end{bmatrix} \right) \cdot \begin{bmatrix} -13 \\ 0 \\ 0 \end{bmatrix} = 0$$

すなわち

$$x - 13 = 0.$$

- ③ 略
- ④ 方程式を満たしているかどうかチェックして、 $\begin{bmatrix} 13 \\ 9 \end{bmatrix}$  は平面上にある。  
 $\begin{bmatrix} 1 \\ 1 \\ 3 \end{bmatrix}$  は平面上にない。

### L06-Q3

Quiz 解答: パラメタ表示された直線と、方程式で表された平面の共通部分

$f(\mathbf{p}(t)) = 0$  を解いて、 $t = -4$ 。よって共通部分は、点

$$\mathbf{p}(-4) = \begin{bmatrix} 3 \\ 1 \\ 2 \end{bmatrix} (-4) + \begin{bmatrix} 13 \\ 5 \\ 7 \end{bmatrix} = \begin{bmatrix} 1 \\ 1 \\ -1 \end{bmatrix}.$$

## 直線と平面の共通部分の求め方 (例 2)

L06-Q4

Quiz 解答: 方程式で表された直線と, パラメタ表示された平面の交点

 $f_1(\mathbf{p}(t, s)) = f_2(\mathbf{p}(t, s)) = 0$  を解いて,  $t = 2, s = 3$ . よって共通部分は, 点  $\mathbf{p}(2, 3) = \begin{bmatrix} 3 \\ 1 \\ 2 \end{bmatrix} \cdot 2 + \begin{bmatrix} 2 \\ 3 \\ 1 \end{bmatrix} \cdot 3 + \begin{bmatrix} 6 \\ 4 \\ 3 \end{bmatrix} = \begin{bmatrix} 18 \\ 15 \\ 10 \end{bmatrix}$ .

## ここまで来たよ

6 空間内の平面・直線の共通部分

7 写像・変換・1次変換|0章平面と1次変換

- 1. 写像と変換
- 2. 1次変換と行列
- 3. いろいろな1次変換 (途中まで)

## ◆写像 加藤 線形代数 §0.1

### 定義 (写像)

2つの集合 (set)  $X, Y$  において,  $X$  のどの要素 (element, 元ともいう) にも,  $Y$  の要素が1つずつ対応しているとき, この対応 (規則) を  $X$  から  $Y$  への写像 (map, mapping) という. 加藤 線形代数 p.6,p.12,p.191

### 写像の記号

$$f : X \rightarrow Y$$

写像名 : 定義域 (集合)  $\rightarrow$  終域 (集合)

$$f : a \mapsto b$$

写像名 : 要素, 元  $\mapsto$  像

$f(a) = b$  ともかく,  $b$  を「 $f$  による  $a$  の像 (image)」という

## 写像の例

$X$ =実数全体または部分集合,  $Y$ =実数全体, というケースに限定したとき, 写像は (以前から知っている) **関数** (function) に一致する.

### 例 (実数から実数への写像=関数)

$$f: \mathbb{R} \rightarrow \mathbb{R}$$

$$f: x \mapsto x^2 \quad \text{高校なら関数 } f(x) = x^2 \text{ と書くところ.}$$

写像は, 一般の集合で考えられる.

### 定義 (集合)

$\mathbb{R}$  =(実数の全体の集合)

$\mathbb{R}^2 = \{ \begin{bmatrix} x \\ y \end{bmatrix} \mid x, y \in \mathbb{R} \}$ : 2次元実数ベクトルの集合=平面  $E$ .

集合={元の形|元の満たす条件}.

## 例 (直線のパラメータ表示は写像)

平面内の場合  $f: \mathbb{R} \rightarrow \mathbb{R}^2$

(空間内なら  $f: \mathbb{R} \rightarrow \mathbb{R}^3$ )

$$f: t \mapsto \begin{bmatrix} 1 \\ 2 \end{bmatrix} t + \begin{bmatrix} 3 \\ 4 \end{bmatrix}$$

同様に使う書き方:  $f(t) = \begin{bmatrix} 1 \\ 2 \end{bmatrix} t + \begin{bmatrix} 3 \\ 4 \end{bmatrix}$ ,  $\boldsymbol{x}(t) = \begin{bmatrix} 1 \\ 2 \end{bmatrix} t + \begin{bmatrix} 3 \\ 4 \end{bmatrix}$

## 例

空間内の平面のパラメータ表示は  から  への写像

$$\boldsymbol{p}(t, s) = \begin{bmatrix} 1 \\ 2 \\ 3 \end{bmatrix} t + \begin{bmatrix} 4 \\ 5 \\ 6 \end{bmatrix} s + \begin{bmatrix} 7 \\ 8 \\ 9 \end{bmatrix}$$

## 例

平面内の直線の方程式の  $f(\boldsymbol{x})$  は  から  への写像

$$f(\boldsymbol{x}) = \boldsymbol{n} \cdot (\boldsymbol{x} - \boldsymbol{c}) = 3x + 2y + 3 = 0$$

## 例

空間内の平面の方程式の  $f(\boldsymbol{x})$  は  から  への写像

$$f(\boldsymbol{x}) = \boldsymbol{n} \cdot (\boldsymbol{x} - \boldsymbol{c}) = 3x + 2y + 5z + 3 = 0$$

空間内の直線の方程式は  から  への写像 を使って書ける.

## ◆変換

### 定義 (変換)

集合  $X$  から  $X$  自身への写像を  $X$  の **変換** (transformation) という。

写像で、 $Y = X$  のケースということ。

### 例 (実数の変換)

$$f: \mathbb{R} \rightarrow \mathbb{R}$$

$$f: x \mapsto e^x$$

(実数全体で定義された) 関数は実数の変換

### 例 (写像で、 $\mathbb{R}^2$ の変換であるもの)

$$f: \mathbb{R}^2 \rightarrow \mathbb{R}^2$$

$$f: \begin{bmatrix} x \\ y \end{bmatrix} \mapsto \begin{bmatrix} x \\ -y \end{bmatrix}$$

### 例 (変換でない写像)

$$f: \mathbb{R}^2 \rightarrow \mathbb{R}$$

$$f: \begin{bmatrix} x \\ y \end{bmatrix} \mapsto 2x + 3y + 5$$

## ここまで来たよ

6 空間内の平面・直線の共通部分

7 写像・変換・1次変換|0章平面と1次変換

- 1. 写像と変換
- 2. 1次変換と行列
- 3. いろいろな1次変換 (途中まで)

## ◆ 1次変換 加藤 線形代数 p.7

### 定義 (1次変換, 線形変換)

$\mathbb{R}^2$  の変換で,

$$f : \begin{bmatrix} x \\ y \end{bmatrix} \mapsto \begin{bmatrix} x' \\ y' \end{bmatrix} = \begin{bmatrix} ax+by \\ cx+dy \end{bmatrix}$$

の形のものを (2次元の) **1次変換**, **線形変換** (linear transformation) という。

教科書修正 加藤 線形代数 p.7

**誤** これらの点の座標の間には以下の関係式が成り立つ. (式) この場合...)

**正** これらの点の座標の間に以下の関係式 (式) が成り立つ場合...)

### 教科書の間違い探し

末尾の奥付の, 版と年月日を確認しよう.

出版社や著者のサイトに正誤表がないか確認しよう

<https://www.chart.co.jp/goods/item/contents/43168.html>

## 定義 (行列 (1次変換の記号))

$$f : \begin{bmatrix} x \\ y \end{bmatrix} \mapsto \begin{bmatrix} ax + by \\ cx + dy \end{bmatrix}$$

$$\begin{cases} x' = ax + by \\ y' = cx + dy \end{cases}$$

$$\begin{bmatrix} x' \\ y' \end{bmatrix} = \begin{bmatrix} a & b \\ c & d \end{bmatrix} \begin{bmatrix} x \\ y \end{bmatrix}$$

はすべて同じことを表す記法.

次のように実数を長方形の表状にならべて [ ] で括ったもの  $\begin{bmatrix} a & b \\ c & d \end{bmatrix}$ ,

$\begin{bmatrix} x \\ y \end{bmatrix}$  を **行列** (matrix) という.

行列  $\begin{bmatrix} a & b \\ c & d \end{bmatrix}$  と行列 (ベクトル)  $\begin{bmatrix} x \\ y \end{bmatrix}$  の **積** は行列 (ベクトル)  $\begin{bmatrix} x' \\ y' \end{bmatrix}$  に等しい,

## 例題

行列  $A$  と  $x$  から像  $Ax$

加藤 線形代数 例題 2(p.9), mobius K0.2.10, チーム課題 1

$x$  と像  $Ax$  から行列  $A$

加藤 線形代数 例題 1, 加藤 線形代数 例題 3(p.10), mobius K0.2.10, チーム課題 2

mobius での行列入力

$$\begin{bmatrix} x \\ y \end{bmatrix} = \langle x, y \rangle$$

$$\begin{bmatrix} a & b \\ c & d \end{bmatrix} = \langle \langle a, c \rangle | \langle b, d \rangle \rangle \text{ (or } \langle \langle a | b \rangle, \langle c | d \rangle \rangle \text{)}$$

縦ベクトルを横にならべたイメージ. mobius L00.03

Trial L07 出題計画 mobius K0.2.10

## ここまで来たよ

6 空間内の平面・直線の共通部分

7 写像・変換・1次変換|0章平面と1次変換

- 1. 写像と変換
- 2. 1次変換と行列
- 3. いろいろな1次変換 (途中まで)

対称変換 加藤 線形代数 例 1(p.7)

## 例 (対称変換)

- $x$  軸に関する対称変換  $\begin{bmatrix} 1 & 0 \\ 0 & -1 \end{bmatrix}$
- $y$  軸に関する対称変換  $\begin{bmatrix} -1 & 0 \\ 0 & 1 \end{bmatrix}$
- 直線  $y = x$  に関する対称変換  $\begin{bmatrix} 0 & 1 \\ 1 & 0 \end{bmatrix}$
- 原点に関する対称変換  $\begin{bmatrix} -1 & 0 \\ 0 & -1 \end{bmatrix}$

相似変換と恒等変換 加藤 線形代数 例 1(p.8)

## 例 (相似変換)

- 相似比  $k$  の相似変換  $\begin{bmatrix} k & 0 \\ 0 & k \end{bmatrix} = kE$
- 恒等変換  $E = \begin{bmatrix} 1 & 0 \\ 0 & 1 \end{bmatrix}$

回転と1次変換 加藤 線形代数 (p.13)

## 例 (回転変換)

- 一般角  $\theta$  だけ回転した回転変換  $\begin{bmatrix} \cos \theta & -\sin \theta \\ \sin \theta & \cos \theta \end{bmatrix}$